



クローバー動物病院

だより 第6号



今回は、しつけ①についてです。

しつけ

1 しつけを始める前に

☆ 犬の祖先はオオカミといわれ、彼らはリーダーに率いられた群れで生活し、完全な順位社会となっています。

☆ そのため、犬は必ず自分をふくめた周りの人たちを順位付けしています。家庭で飼われる場合、**リーダーは常に人間であることが大切です。**
かれらの幸せのためにも、飼主さんが信頼されるリーダーになりましょう！

☆ 「しつけ」を行っていて、犬が理解できないのは飼主さんが途中であきらめてしまったり、飼主さん側に問題がある場合がほとんどです。

①**家族の協力と意思統一**：家族で号令や扱い方などを統一しておく必要があります。

②**一つの命令ができたとしても、それが終わりではありません。**
いつもできていることでも繰り返し行うことが必要です。

2 犬にとってのリーダーとは

☆ 威厳のある優位者である。

☆ ごはんを与えてくれるなどの世話をしてくれる、信頼できる人である。

☆ リーダーのいうことを聞き、従順にしていれば、楽しいことがあり、リーダーも自分も楽しい。

自分が認める良いリーダーに対し、犬は…



♪横たわってお腹を見せるなど、服従心を示す。

♪一度の命令で確実にいわれたことを実行できる。

♪常に注目し、命令を待ってくれる。

そして犬もリーダーも穏やかに安心でき、楽しく暮らすことができるのです。

3 しつけの基本

まずは、しつけやすい犬にしましょう。

- ポイント**
- 1 人の手で自由に扱えるようにする。
 - 2 日頃から親しく言葉をかけ、人の気持ちを読み取れる犬にする。
 - 3 **同じ言葉で根気よく。一度教えたらくずさない。**

アイコンタクトを教える

アイコンタクト（目と目を合わせる）とは、しつけの第一歩で、犬がいつでも飼主さんの目や手に注目するようにしておくことです。飼主さんに名前を呼ばれたら、犬が飼主さんに注目するようにします。



方法

- ①犬と人との視線上に、おやつやおもちゃをもっていき、名前をいう。
- ②すぐに与えずにしばらくこれを見つめて待つように習慣づける。
- ③うまくできたら、にっこり笑って与える。

できれば一日数回は行いましょう。

注意 犬をしかるときは、犬の名前をいわないでください。

たくさんほめて、短くしかる：「ヨシ」と「イケナイ」

しつけの基本は、良い行動をほめ、悪いことは**すぐその場で**しかることが大切です。

1 一貫性をもって

例：同じイタズラに対し、あるときはしかり、あるときは許すというような気まぐれな態度はイヌを迷わせます。

2 ほめるときはオーバーなくらいの喜びの表現で

ごほうびの例：おやつ、おもちゃ、一緒に遊ぶ、視線をむける、声をかける、胸や首をなでるなど。

3 しかるときでも、体罰は逆効果（犬の信頼をそこないます）

逆にして欲しくないことをしたときには無視するのがよいでしょう

4 ほめることは多く、しかることは少なく（5対1くらい）